

藏 数 赤 坂 遺 跡

福岡県筑後市大字藏数所在遺跡の調査

筑後市文化財調査報告書 第14集

1995

筑後市教育委員会

くら かず あか さか 遺跡

県営赤坂団地の建替え建設に伴う埋蔵文化財発掘調査

1995

筑後市教育委員会

序

近年、筑後市のはば全域で、貴重な遺跡の発掘調査が続いております。

埋蔵文化財の取扱いについては、事前に協議を重ね、埋蔵文化財保護についてご協力をお願いしている次第であります。

本年度の県営赤坂団地の建替え建設につきましても、事前に発掘調査を実施し、記録を保存することになりました。発掘調査の報告としては、満足の行くものではありませんが、本書を通じ文化財に対する認識とご理解、また学術研究の一助となれば幸いです。

調査にあたりましては福岡県住宅供給公社、福岡県教育委員会をはじめ、ご協力いただきました関係各位並びに調査に参加されました作業員の方々に、心から感謝いたしますと共に厚くお礼申し上げます。

平成7年3月31日

筑後市教育委員会
教育長 森田基之

例　　言

1. 本書は、県営赤坂団地の建替え建設に伴い、福岡県住宅供給公社の依頼を受けて、筑後市教育委員会が実施した蔵数赤坂遺跡（筑後市大字蔵数584-1外所在）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は平成6年5月9日から6月2日で、開発対象面積約4,600m²のうち、掘削の及ぶ約1,700m²を調査面積として実施した。
3. 遺構・遺物の実測・製図は小林勇作のほか、平塚あけみ、大島真一郎の協力を得た。また、遺構と遺物の写真は小林が行い、遺構の空中写真は（有）空中写真企画に委託した。
4. 掘図で示す方位は座標北（G. N）である。
5. 本書の執筆、編集は小林が行った。

目　　次

1 はじめに	1
2 位置と環境	1
3 遺構と遺物	5
4 おわりに	7

1 はじめに

福岡県住宅供給公社は、筑後市の県営赤坂団地の建替え建設を計画し、平成6年度建設予定地内の埋蔵文化財の有無とその取扱について、筑後市教育委員会に照会があった。これを受け、筑後市教育委員会では現地の試掘調査を実施することとした。

試掘調査は平成5年10月1日に重機を用いて行い、予定地であるほぼ全面から小穴や溝を検出した。この結果を基に、再度協議を行い、削半の及ぶ約1,700m²を対象として発掘調査を実施することになった。調査は平成6年5月9日から6月2日まで、6月2日には気球による空中写真撮影を実施した。

調査に際しては、福岡県教育庁南筑後教育事務所 伊崎俊秋氏にお世話になった。

発掘調査及び整理作業の関係者は次の通りである。

調査主体 筑後市教育委員会

総括 教育長 森田基之	技師 水見秀徳
教育部長 津留忠義	小林勇作(調査担当)
社会教育課長 下川雅晴	塚本映子(嘱託)
社会教育係長 松永盛四郎	H6.7.15~

発掘調査参加者(順不同、敬称略)

愛川一枝	今村鈴子	小野清次	小野ミノブ	大石新一	加藤礼子
蒲池京子	下川町子	田島好江	中沢やよい	矢次和枝	吉田裕
吉田喜美子					

整理作業参加者(順不同、敬称略)

平塚あけみ(整理補助員)	大島真一郎	奥村太郎	桜木千鶴	野田洋子
野間口靖子	馬場敦子	深川善子	湊まど香	

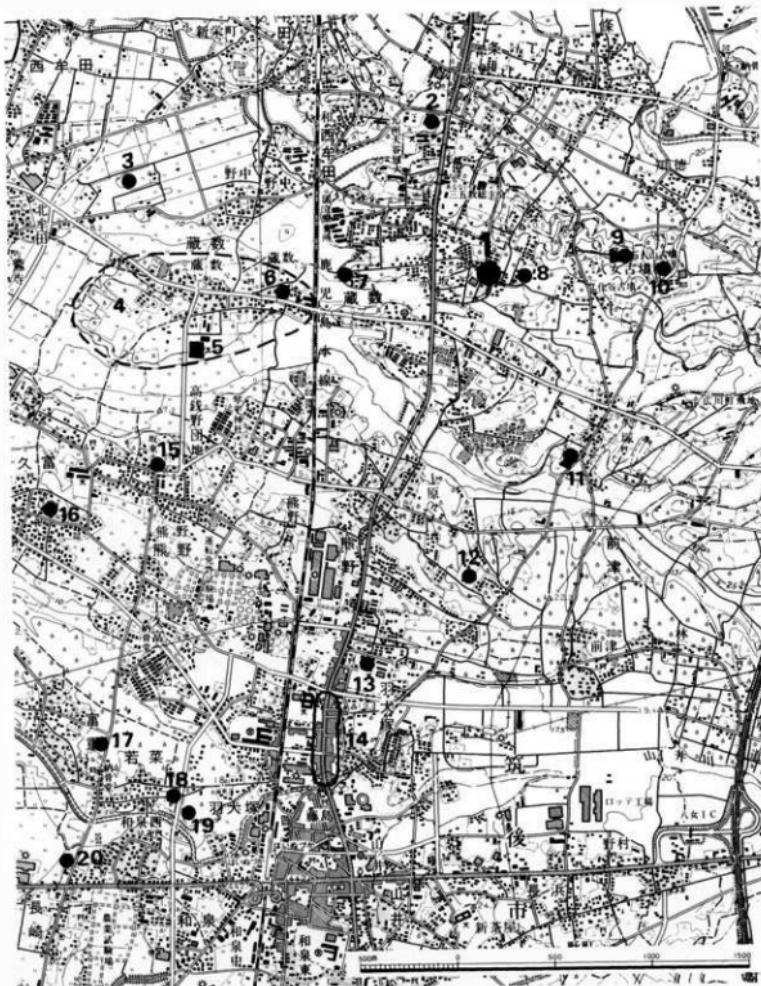
2 位置と環境

蔵数赤坂遺跡は福岡県筑後市大字蔵数584-1に所在する。

筑後市は、福岡県の南部、筑後平野のはば中央に位置し、市内的人口は近年増加傾向にある。北の久留米市から南の瀬高町へと走る国道209号線沿いには、江戸時代の宿場跡などの名残をとどめながら、現在の市街地が広がる。筑後市の産物としては、葡萄や梨といった果樹栽培や県下有数の水田地帯であるほか、い草やタオルなどの地場産業も盛んである。

次に筑後市の地形についてであるが、北東部は標高15~30mの丘陵(八女丘陵)が広がり、筑後市で最も高い地点となる。これより丘陵は、南部になるにつれて次第にゆるやかな低地を形成していく。南西部は標高5m未満の低湿地帯となり、無数のクリークが縱横無尽に巡っている。

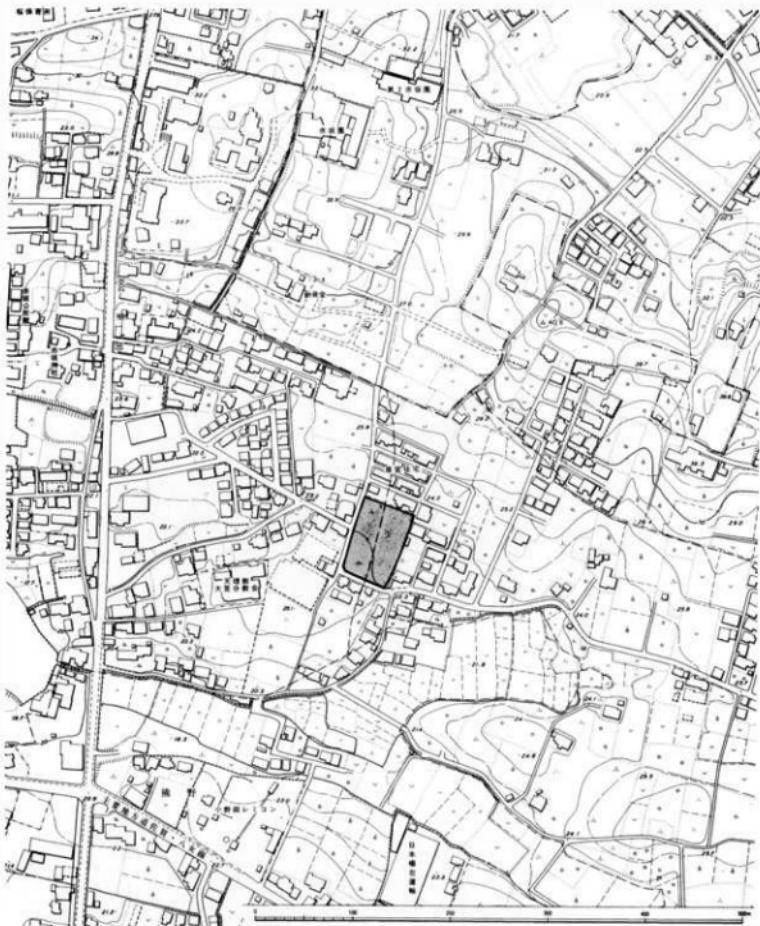
蔵数赤坂遺跡は、住宅に囲まれる八女丘陵上の標高25mの所に位置する。八女丘陵の西端部付近にあたるため、周辺には前方後円墳である石人山古墳や欠塚古墳、装飾古墳として有名な弘化谷古墳などがある。また、弥生時代の遺跡として、鯉ノ谷遺跡や長原山遺跡なども確認されている。これより以南にみる筑後市の主な遺跡は、縄文時代の集落遺跡である裏山遺跡や弥生時代の狐塚遺跡、下北島遺跡、古墳時代の住居跡が数多く確認された蔵数森ノ木遺跡や古代官道の一つである西海遺跡が確認された鶴田市ノ塚遺跡、縄文時代から江戸時代までの複合遺跡である若菜遺跡など、数多くの遺跡が点在する。



第1図 遺跡分布図 (1/25,000)

遺跡名

- | | | | |
|--------------|-------------|-----------|-------------|
| 1. 蔵敷赤坂遺跡 | 2. 瑞王寺古墳 | 3. 田佛遺跡 | 4. 蔵敷遺跡群 |
| 5. 蔵敷森ノ木遺跡 | 6. 蔵敷東野屋敷遺跡 | 7. 長原山遺跡 | 8. 鯉の谷遺跡 |
| 9. 石人山古墳 | 10. 弘化谷古墳 | 11. 欠塚古墳 | 12. 前津中ノ王遺跡 |
| 13. 羽犬塚中学校遺跡 | 14. 羽犬塚町団 | 15. 熊野板東寺 | 16. 久富鳥居遺跡 |
| 17. 辻遺跡 | 18. 若菜経塚遺跡 | 19. 若菜遺跡 | 20. 坊田遺跡 |



第2図 周辺地形図 (1/5,000)

註-1 筑後市文化財報告書第8集 「欠塚古墳」筑後市教育委員会 1993

註-2 郷土の文化財 1 「弘化谷古墳」広川町教育委員会 1991

註-3 「裏山遺跡」筑後市教育委員会 1966

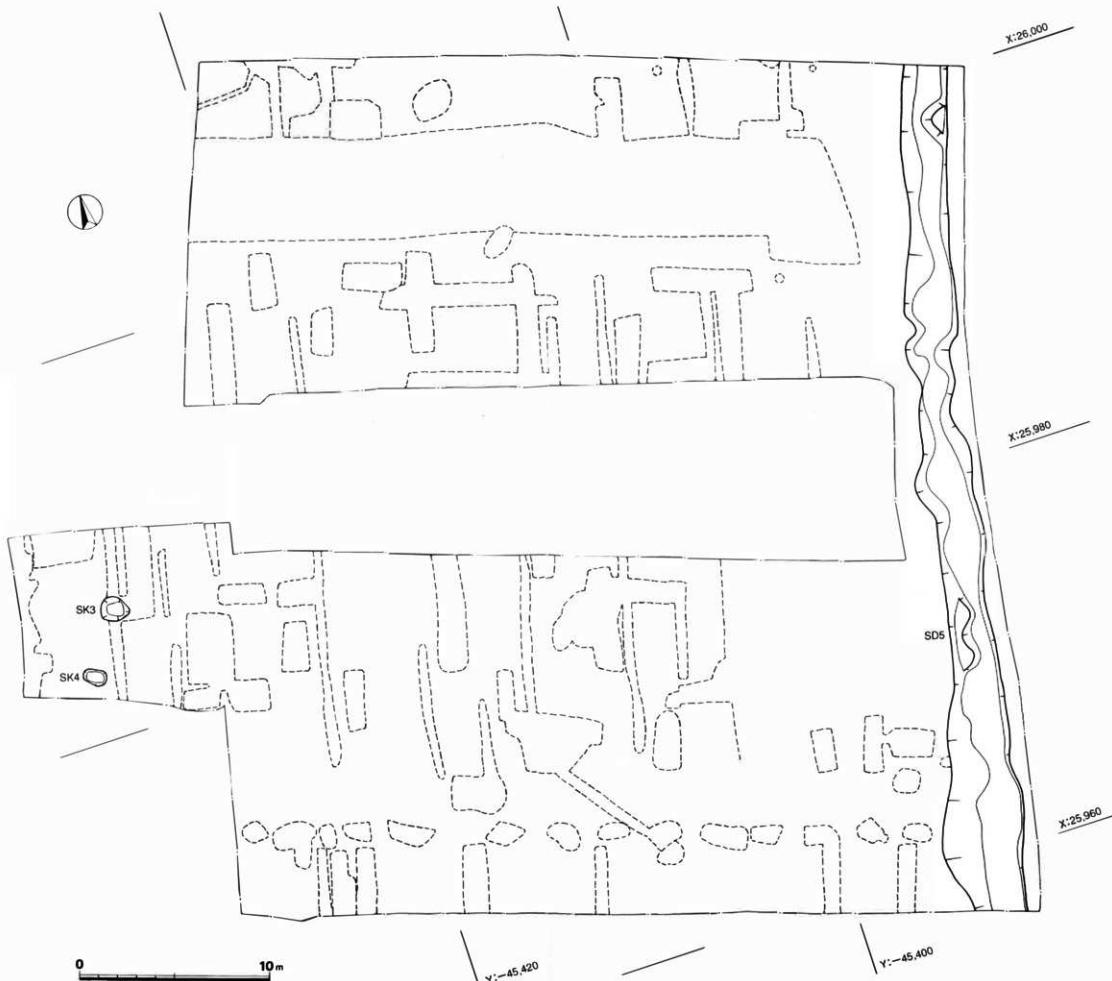
註-4 「狐塚遺跡」筑後市教育委員会 1970

註-5 **平成元年度調査**

註-6 筑後市文化財報告書第6集 「蔵敷遺跡群」筑後市教育委員会 1990

註-7 **平成5~6年度調査**

註-8 **平成4~6年度調査**



第3図 蔵敷赤坂遺跡・遺構全体図 (1/200)

3 遺構と遺物

1. 検出遺構（第3図・図版1～3）

開発対象面積約4,600m²のうち、事前に行った試掘調査にては全面から遺構を確認したが、その後の協議で掘削の及ぶ1,700m²を発掘調査として実施することになった。調査区は、北から延びる標高25m前後のいわゆる八女丘陵上にあり、南へ向かって緩やかに傾斜している。50～80cm程の厚い包含層を取り除くと黄褐色のローム質土に達し、これが遺構面となる。当該地は調査直前まで、古くから葡萄畠として活用されており、遺構は暗渠排水溝等によって著しく破壊されていた。

よって調査の結果、調査区の東端から南北にはしる溝を1条検出したほか、調査区の西端から土壙2基確認したのみで、顯著な遺構はほとんど認められなかった。

SK 3

上幅150cm、下幅90cm、深さ112cmを測り、埋土は黄茶褐色の粘質土であった。目立った遺物はなかったが、2、3cm程の小石がまとまって出土した。

SK 4

上幅120cm、下幅90cm、深さ40cmを測る楕円形の土壙で、埋土は黄茶褐色粘質土であった。SK 3と同様に出土遺物はなかったが、2、3cm程の小石が散乱している様に確認した。

SD 5

幅2～4m、深さ20～30cm程度の溝を44m検出し、溝底のレベルは南へ低くなっている。埋土は暗黒褐色粘質土のレンズ状堆積で砂層の発達は観られなかった。遺物は葡萄の棚に使用したと思われる金属片を出土したのみであった。

2. 出土遺物（第4図・図版4）

(1)～(7)はカクランで、(8)はSD 5からの出土遺物である。

陶器

花瓶(1) 底径9.1cm、体部13.7cmを測る。外面体部は茶褐色の釉を施し、外底部は露胎で糸切りとなる。赤坂焼の陶器と思われる。

すり鉢(2) 復原口径19.0cmを測る。胎土は褐色で、内外面に薄く黒釉を施す。(1)と同様、赤坂焼の陶器と考えられる。

鉢(3) 復原体部径17.0cmを測り、内面は透明な釉を施す。外面には黒茶色の顔料と飛びガシナ風の模様を施している。

壺(4) 淡灰褐色の胎土に、乳灰色と淡緑色の上釉を施す。外面には一部貫入がみられる。

脚台(5) 復原径8.4cmを測るはば円形をした脚台である。脚は4つ付着するものと思われる。

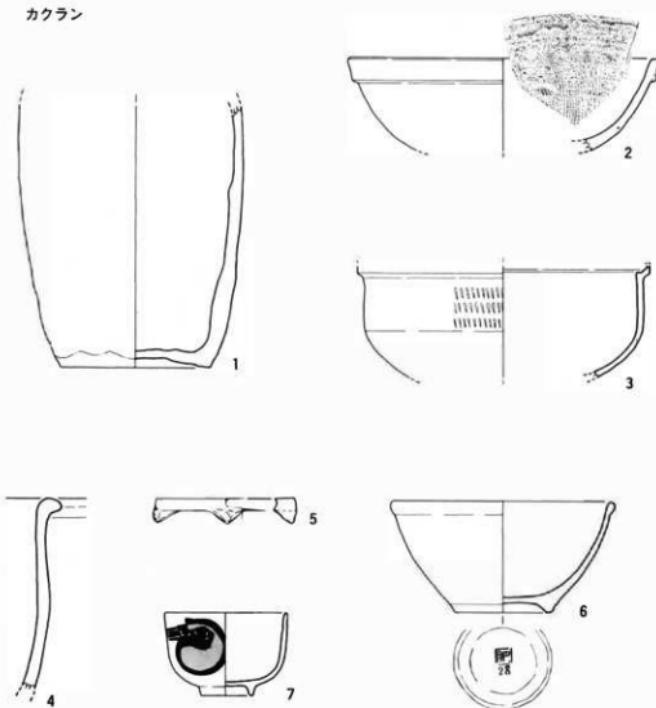
磁器

碗(6) 口径13.7cm、底径6.0cm、器高6.9cmを測り、外面底部にはスタンプによる銘が施される。やや小さめの玉縁口縁で乳白色の釉を施す。

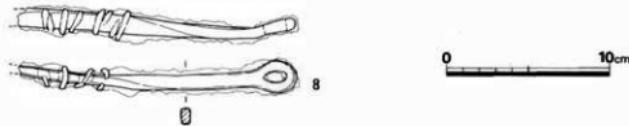
湯呑み(7) 口径7.5cm、高台径3.2cm、器高5.1cmを測り、外面にはゲルマの色絵が描かれている。

鉄製品(8) 断面径は1.0cmを測る。腐食が酷く、先端には通し穴が施されている。

カクラン



SD 05



第4図 出土遺物実測図 (1/3)

4 おわりに

今回調査した蔵敷赤坂遺跡は、ちょうど八女丘陵の南斜面という絶好の立地条件となる位置にあたり、現在、筑後市のベットタウンともいいくべき地域となっている。これまで遺跡の周辺では数多くの遺跡が確認され、中でも石人山古墳や弘化谷古墳、瑞王寺古墳といった県下有数の古墳群が点在しており、調査前からこれらに関連する遺跡群として大きな期待をよせられる場所であった。ところが、試掘調査や本調査によって、ほとんどが近代のカクランによって破壊されていることが明らかになり、遺跡の性格すらわかりにくい現場となってしまったことから、今後の周辺の調査が待たれる。赤坂県営住宅建替え事業は平成6年度から平成8年度までの事業計画となっていることから、更に周辺の調査が期待されることであろう。

ところで、出土した遺物について興味深い点について簡単に触れたいと思う。まずSK3・4で確認した2、3cm程度の小石は、土壌の下層部掘下げ段階で出土した。確認当初、木の実とも考えられたため、九州農業試験場に植物の種子鑑定を依頼した結果、種子ではなく鉱物であることが判明した。まとまって出土しているものの、他の出土遺物を認めないため時期については不明である。次にカクランから出土した遺物のなかで筑後市内に窯跡を有する赤坂焼がある。赤坂焼は古くからの窯跡（1812年～現在）で、筑後市で古い歴史を持つ水田焼、板東寺焼といった素焼系の陶器とは異なり、本格的な釉薬使用の伊万里焼系統のよさを世に紹介し、久留米藩御用窯として今日まで伝えられているものである。文献によると赤坂焼の特徴として、

1. 極細かい土味を生かした精巧さ
2. ソバ釉と緑青の素朴さ（銅に生じる緑色の有毒なさび・無水炭酸と銅の化合物である）
3. 穀倉筑後の藁灰を使ったナマコ調の美しさ
4. 高良台産の酸化鉄を使ったシソ手瓶（把手のある瓶）

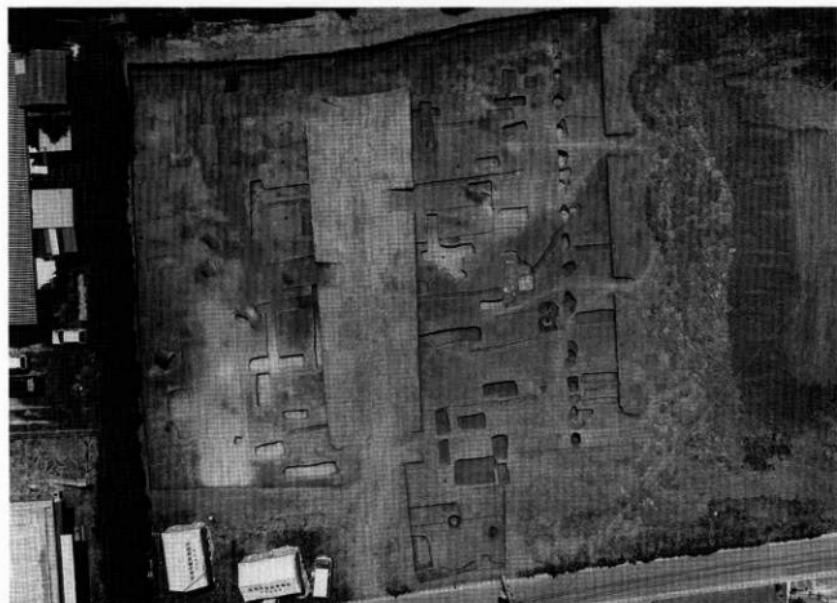
とあり、壺・甕・花瓶・徳利・皿といった日常で使う雑器が主流である。今回出土した遺物（1）（2）は赤坂焼の特徴を施したもので、いずれも50年前の制作と考える。

（参考文献）

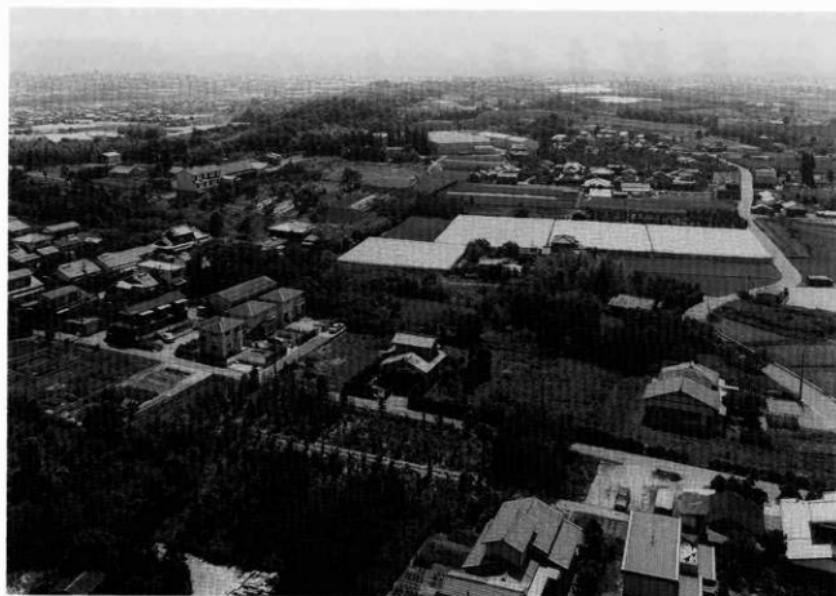
筑後市教育委員会 筑後郷土史研究会 「筑後赤坂焼」 昭和52年8月



蔵敷赤坂遺跡全景（気球写真・南から）



蔵敷赤坂遺跡全景（気球写真・真上から）



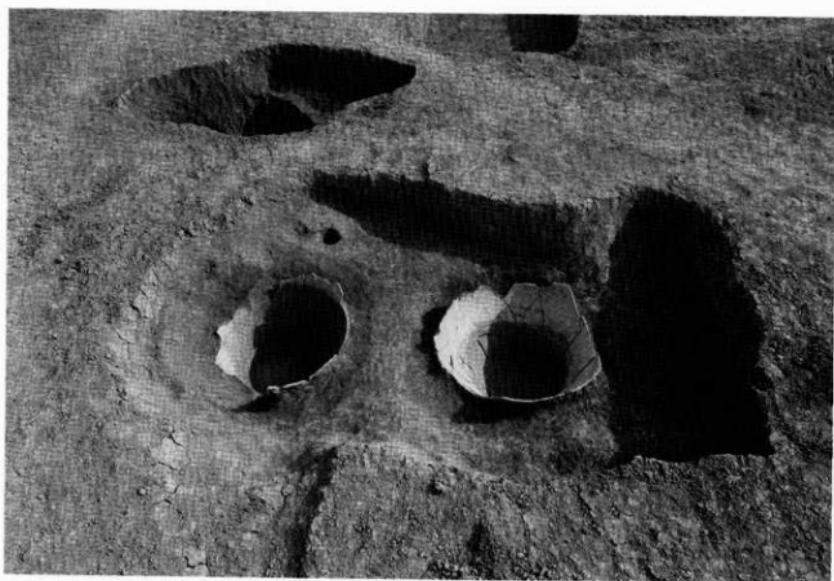
蔵数赤坂遺跡上空から八女古墳群を望む（気球写真・西から）



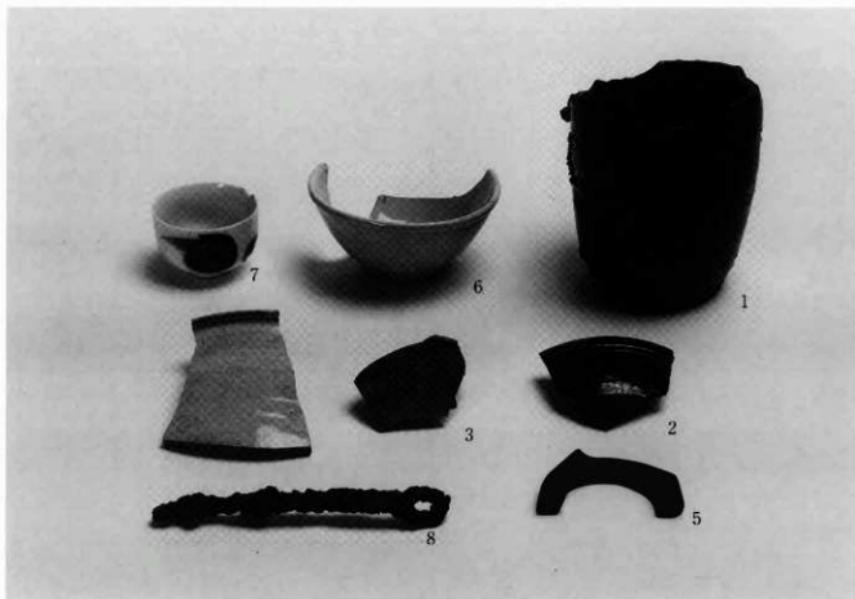
蔵数赤坂遺跡水没状況（南から）



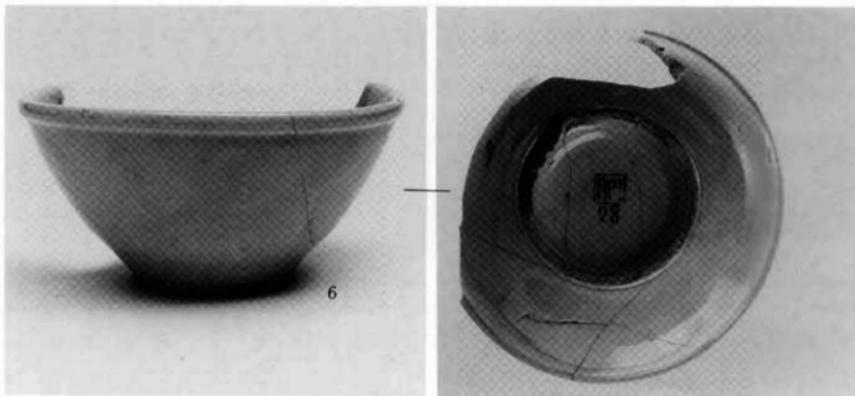
SD 5 出土状況（空中写真・真上から）



肥料用 出土状況（カクラン・北から）



出土遺物



磁器

藏 数 赤坂 遺跡

筑後市文化財調査報告書

第 14 集

1995 年 3 月 31 日

発 行 筑後市教育委員会

筑後市大字山ノ井 898

印 刷 マイ・コピント

筑後市大字野町 423-8

電話 0942-53-8122

